



▲小学5・6年生との記念撮影

市女性団体連絡協議会が主催する『渋川市「家族の日」大会』に出席しました。大会では、1000人を超える市内の小・中学生が書いた作文の中から、各学年の最優秀賞を受賞した9人



が作文を朗読しました。それぞれが、日常生活の中で感じた、きょうだいや両親、おじいちゃん・おばあちゃんのことなどについての心温まる作文でした。

最近の家族は、昔のような大人数から、「核家族」といわれる少人数が多くなっています。しかし、別の場所ですら暮らしていても、家族に変わりはありません。この日も、離れて暮らすおじいちゃん・おばあちゃんが来場して、孫の発表を見ていました。

大会の最後に、記念撮影をしました。隣に座った小学5年生の男の子から「地区の夏祭りに来てくれてありがとう。また来年も来てください」と声を掛けられました。うれしくて、久しぶりに孫に会ったおじいちゃんになった気分でした。

私は、毎年、市役所の新採用職員の辞令交付式で「全ての市民を家族だと思ってください」と話しています。7万5000人の全市民が家族と同じ絆でつながれば「共生社会のまち」が実現するのでは、と感じた一日でした。

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館 (TEL 253215)

## 美術の小窓

《赤城野地蔵》

島田 文男 作

2019年

縦10cm×横15cm

素材:紙、インク



島田文男(1951-)は、20代半ばから独学で版画制作を始め、公募の版画展に挑戦し、数々の受賞をしました。「群馬版画家協会」が開く「ぐんま版画展」に第1回から出品すると、自身でも個展を開き発表活動に力を入れました。

この作品は、あぜ道で遊んでいた子どもの頃の記憶と、現在、歳を経て愛犬との散歩で目にする光景いし。古の名も無き石工職人に思いをはせながら、野仏の素朴な表情を捉えています。12月26日(火)まで、市役所第二庁舎1階回廊の北東の壁面で展示しています。

●市美術館は、移転のため休館しています



◀工事は順調に進んでいます (11月13日撮影)

地域おこし  
協力隊

長沼隊員の  
おすすめスポット

— Vol.33 —



気付けばもう12月！1年が本当にあっという間です。さあ、今月ご紹介するのは、市総合公園展望台から見た景色です。

冬のすっきり晴れた日は赤城山がくっきり見られるのでとても綺麗です！夏の緑の赤城山も良いですが、雪が積もってちょっと寒そうな赤城山も抜群です。冬の景色は春夏秋に比べて色が無くなってしまっているので寂しさを感じることが多いですが、冬は冬で違った魅力がありますよね！



▲協力隊のSNSはこちら

ぜひ、冬の景色も楽しんでください！

